



消防大学校だより

幹部科(第29期)

消防大学校では、消防本部の中核を担っている消防司令の階級にある職員を中心に、「消防に関する高度な知識及び技術を総合的に修得させ、消防の上級幹部たるに相応しい人材を養成すること」を目的として、今年度も「幹部科」を4期(第29期～第32期)行います。

幹部科第29期は、梅雨入り間もない6月13日の入校から7月27日の卒業までの45日間、全国から集まった75名により実施されました。

学生は、年明けの1月から約4ヶ月に渡るe-ラーニングによる事前教育と約1ヶ月半の全寮制集合教育を終了し、全員が無事卒業しました。

幹部科のe-ラーニング教育は、平成18年度に導入したインターネットによる通信教育で、消防の基礎的な教育を入校前に行うことで、入校後の集合教育のレベルを高めています。

昨年3月11日に発生した東日本大震災以降、特に防災・減災が全国的にクローズアップされる中で、幹部科では消防法制の改正点、最新の消防行政の動向、危機管理、部下指導の講義や消防庁消防・危機管理センターにおける研修等のほか、大規模地震災害に対する消防組織の運営手法や緊急消防援助隊の受援・応援要領等に関する実践的な訓練を行い、上級幹部として必要な知識、能力及び技術を総合的に修得していきます。

特に実科訓練では、実災害を想定した指揮訓練の中で、

現場指揮本部の最高責任者となる本部長、本部長を補佐する指揮担当及び情報担当として各学生が活動するなど、熱のこもった訓練となりました。

また、複雑多様化・大規模化する災害に的確に対応するため、消防の幹部としての災害対応能力や関係機関との連携能力を高め、高度な指揮活動が行えるよう、図上訓練や指揮シミュレーション訓練等を行いました。

そして今年度から課題解決能力の向上、対話力の向上などを目的として課題研究を行いました。これは、学生自身が業務の上で身近に抱えている課題、不安に思っている問題点等について、班ごとにテーマを決め、日課又は課外の時間を活用して討議し合い、その結果を発表するものです。各班とも取り上げたテーマについての現状分析を行い、課題等を解決してあるべき姿を導き出し、それを発表することにより、学生全員が情報を共有して今後の業務に生かせる内容となりました。

今後は、消防大学校で修得した幅広い知識・技術をいかんなく発揮し、地域の「安心と安全」のために、さらなる活躍を期待します。

問い合わせ先

消防庁消防大学校教務部 宮川助教 教授
TEL: 0422-46-1712



海上災害防止センターでの消火訓練



現場指揮本部実科訓練



指揮シミュレーション訓練



課題研究発表

警防科(第91期)

消防大学校では、平成24年6月14日から8月1日までの51日間、全国の消防本部等から選抜された警防業務の指導的立場にある職員60名が、警防科第91期に入校しました。

本教育訓練は、警防業務に関する高度な知識及び技術を専門的に習得させ、警防業務の教育指導者等としての資質を向上させることを目的とし、重点項目として、警防業務の多様な理論・事例・戦術、をはじめ、各種指揮要領の習得及び訓練企画及び安全管理計画の作成要領としました。

座学においては、安全管理、現場指揮、各種火災防ぎょ理論、NBC災害、予防業務、火災調査及び教育技法等、警防業務のリーダーとして必要な知識の習得に努めました。



各種指揮訓練



学生企画総合訓練

実技においては、安全管理実技指導をはじめ、各種指揮訓練、特殊（化学）災害対応訓練、危険予知訓練、指揮シミュレーション訓練、多数傷病者対応訓練及び学生企画総合訓練等により、広く警防活動における基本技術を学びました。

特に今期から指揮訓練においては、小隊長指揮に始まり複数隊指揮を経て指揮隊指揮訓練へと順を追ってステップアップを図り、各指揮についてのポイントについて理解を深められる構成としました。また、安全管理教育については、安全管理のポイントを掴むため実技指導を加え、より深く安全管理について学べる構成としました。

研修を終えた学生からは、「消防人として必要な知識、技術を短期間で習得できましたし、常に新しい発見があり有意義な50日間でした。」「地方では聞くことができない色々な知識を勉強することができた。本質を知ることができ、自信につながった。」など、多くの前向きな意見が寄せられました。

今後は、消防大学校で学んだ知識・技術を基礎として、地域住民の安心と安全のために活躍することを期待します。

問い合わせ先

消防庁消防大学校教務部 安室助教
TEL: 0422-46-1712



危険予知訓練